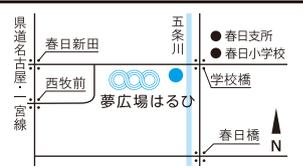


るひ



【清須市はるひ美術館】
 所在地：〒452-0961 清須市春日夢の森1番地
 電話：052-401-3881
 開館時間：午前10時～午後7時(入館は午後6時30分まで)
 休館日：11/4(火)・10(月)・17(月)・25(火)

清須市はるひ美術館 11月の行事予定



《原爆幻想 12 図(ある風景)》1982年

生誕100年 前衛を駆け抜けた画家 岡田徹展

名古屋生まれの画家、岡田徹(おかだ・てつ)[1914(大正3)～2007(平成19)年]の生誕100年を記念し、その画業を紹介する展覧会です。

岡田は20歳頃、ヨーロッパから日本にもたらされた新しい芸術思潮であるシュルレアリスム(超現実主義)に魅了されます。しかし、戦時下にあつて自由な制作が許されず、作品は没収。終戦後はこうした戦争体験をもとに、反戦をテーマとした作品を多く描きました。

本展覧会では、当館の新収蔵作品を中心に、岡田が生涯に手がけた代表的なシリーズをご覧頂くことができます。

10月5日(日)～11月30日(日)

**学芸員による
ギャラリートーク**

と き：11月16日(日)
午後2時～(40分程度)
料 金：無料(本展観覧券が必要)



《カラスの祭典(B)》1976年

観覧料

一般 500円(450円)
中学生以下無料

※()内は前売り及び20名以上の団体料金
※各種障害者手帳提示者及び付添人1名は無料

こちらの市民割券がお得です！
市民割 400円
切り取ってお持ちください。
岡田徹展



館長アートトーク

【テーマ】かわき たはんでいし
陶芸家 川喜田半泥子
その多様で豊かな人生

と き：11月22日(土)
午後4時～5時
ところ：市立図書館 2階研修室

参加費：無料
(前日までに要予約)
申 込：電話 052-401-3881

清須市 第8回 はるひ絵画トリエンナーレ エントリー開始！

受付期間 11月1日[土]～30日[日]

- 【テーマ】 不問
 【応募資格】 不問(年齢国籍問わず)
 【応募規格】 (一部)
 ・10号(53.0×33.3cm)以上、
 100号(162.0×162.0cm)以内
 ・絵画で壁面展示可能な作品
 【応募点数】 1人3点まで
 【応募料】 3点まで8,000円

ぜひ応募ください！

- 【賞】
 大賞 1点[副賞100万円]
 準大賞 2点[副賞20万円]
 優秀賞 5点以内[副賞10万円]
 入選 20点以内[副賞1万円]
 佳作 30点以内

※詳細は、はるひ美術館ウェブサイトをご覧ください。

※大賞の副賞には作品の買い上げを含みます。※入賞・入選は美術館に作品を展示します。

【審査員】

- 中村英樹
(美術評論家・名古屋造形大学名誉教授)
- 櫃田伸也
(画家・東京藝術大学名誉教授・愛知県立芸術大学名誉教授)
- 山脇一夫
(美術評論家・金城学院大学教授)
- 高北幸矢
(造形作家・清須市はるひ美術館館長)

夢広場は

【清須市立図書館】

所在地：〒452-0961 清須市春日夢の森1番地
電話：052-400-1044
開館時間：午前10時～午後7時
休館日：11/4(火)・10(月)・17(月)・25(火)・28(金)

清須市立図書館 11月の行事予定

2階一般企画

落語



現代にも伝わる日本の伝統的な話芸である落語。落語好きの方も、そうでない方も、シンプルだけれど奥が深い伝統芸能の世界に、ぜひ触れてみてください。

落語を楽しむ会

どなたでも気軽に楽しめる落語鑑賞会です。古典の日(11月1日)にちなんで、古典落語の演目もあり！
【とき】11月3日(祝)午後2時～3時
【ところ】1階交流テラス 【はなしか噺家】平々亭青馬氏

歴史資料
展示室

企画展

「戦争の軌跡 - 出征と帰還 -」

清須市所蔵資料を中心に、戦争と戦争で外地に出征した兵士についての展示をいたします。
【とき】11月30日(日)まで
※図書館の開館日・開館時間に準じます。

1階児童企画

芸術の秋



図書館で芸術の秋を楽しもう！美術・音楽関連の資料の他、美術館や音楽ホールなどで行われるイベントのチラシも展示予定です。

引き続き
展開中！
ミステリー
みっけ！



クリスマス 工作会

クリスマスに飾れるくつした型バッグを作ろう！みんなでサンタさんへのお手紙を書けば、クリスマスの準備はバッチリ！

【とき】11月30日(日)午後2時～(1時間程度)
【ところ】2階研修室 【対象】4歳～小学生
【参加費】100円 【定員】20名
【申込】11月14日(金)から電話
または1階カウンターにて受付



El rincón de Eli

エル リン コン テ エリ

『La mesa camilla (スペインのこたつ)』

¡Hola! ¿Cómo vamos?(こんにちは!元気ですか?)私は11月になると、もうそろそろこたつを出そうかなと思うので、今回はスペインのこたつについて話したいと思います。

スペインのこたつは、「mesa camilla」と呼びます。私はスペインの家族と友達に、こたつを「日本のメサ・カミヤ」と説明します。こたつとメサ・カミヤの目的は同じで、下半身を温めることです。しかし、一番の大きな違いはテーブルの高さかもしれません。スペインでは昔から椅子に座る習慣があるため、メサ・カミヤも椅子に座って使える高さです。テーブルは木製で、一般的な形は円形です。テーブルの大きさは家族の人数により様々です。下のほうに「brásero」という火鉢を置き、ブラセロを囲んでいる覆い板の上に足を置きます。最初は木炭のブラセロでしたが、最近ではこたつと同様、電気を使っています。

もともとメサ・カミヤは、中世の騎士たちが集まる時に防寒のために座ったテーブルの下に火鉢を置き、床であるテーブルクロスで熱を保っていました。年月が経つとともに、メサ・カミヤは一般家庭で使用されるようになりました。テーブルクロスが汚れないように、「hule」というオイルクロスで覆って、女性たちは洋服を作ったり、子どもたちは宿題をしたり、家族全員でラジオやテレビに夢中になったり、近所の人や友達が来た時にゆっくり会話をしたりしました。

今では、セントラルヒーティングの普及で、メサ・カミヤを置いている家庭は減りつつあります。祖母はまだ一台持っていますが、私が覚えている限りでは火鉢はなく、普通のテーブルとして使っています。子どもの頃メサ・カミヤの覆い板に座り、火鉢を置くための穴に足を入れ、テーブルクロスで覆われた中で、何時間も遊びました。

皆さんは、スペインでもこたつがあることを知っていましたか?



「ブラセロのメサ・カミヤ」

国際交流員

エリのコーナー ⑤9